日本史B

1 近世初期までの政治・社会（25点）

解答・配点

問1	**2**	2点
問2	（署名者相互が）平等な関係であることを示そうとした。	3点
問3	**3**	3点
問4	半済令	2点
問5	応永の乱	2点
問6	石山	2点
問7	**8**	3点
問8	**2**	2点
問9	**4**	2点
問10	バテレン〔伴天連〕追放令	2点
問11	方広寺	2点

●出題のねらい

「一揆」をテーマにしたリード文を用いて，室町時代から安土・桃山時代の政治・社会などに関して出題した。「一揆」というと「竹槍を持った農民たちの蜂起」のようなイメージを持つ人もいるかもしれないが，本来は人々の団結，あるいは団結してできた集団・組織などをさす用語であった。惣・惣村とよばれる強固な村落共同体，商人・職人の同業組合である座，自治的な町，都市などが広汎に形成され，茶寄合，連歌会など芸能の分野でも「集団的共同」というべき動きがみられた室町時代には，各階層で一揆が結ばれた。しかし安土・桃山時代から江戸時代にかけて，権力が再編・強化されるなかで，一揆的な動きは抑圧されるようになっていった。こうした一揆と権力の関係の流れも確認してほしい。

A　室町時代の一揆

B　戦国時代から安土・桃山時代にかけての一揆

●設問解説

問1　A惣領制が入る。鎌倉時代中期までは，一般に武士の家では分割相続が行われ，一族は惣領を中心に団結していた。こうしたあり方を惣領制とよぶが，鎌倉時代後期以降には分割相続の繰り返しによる所領の細分化などの影響により，単独相続が多くなり，惣領制の解体が進んだ。南北朝の動乱が長期化した背景には，単独で所領を相続する地位をめぐる武士団内部の対立があったとされる。貫高制は，戦国大名が土地からの収入額を銭に換算した貫高を，家臣の軍役の基準とするなど，貫高を利用した支配の仕組みのことである。

B嘉吉が入る。「将軍が暗殺されたことを契機に起こった」から室町幕府6代将軍足利義教が殺された嘉吉の変（1441年）と，その最中に起こり，幕府が初めて徳政令を出すきっかけとなった嘉吉の徳政一揆を想起してほしい。正長の徳政一揆は1428年に起こり，後に「日本開闢以来，土民蜂起是れ初めなり」と興福寺大乗院の門跡尋尊によって『大乗院日記目録』に記された一揆のことである。　基本

問2　図のような署名形式は傘連判とよばれるもので，中世の一揆では，おもに署名の順序によって序列が表現されることを避けるためにとられた形式である。現実の力関係にかかわらず，一揆参加者は平等な関係であることを示そうとしている。教科書や資料集では，江戸時代の百姓一揆に関連して「傘連判状」の写真が掲載されていることが多いが，同様な署名形式は中世の一揆契状にもみられることを知っておきたい。

解答のポイント

＊（署名者相互が）「平等（対等）な関係を示そうとした」ことが書けている

問3　Ⅱ後醍醐天皇の命を受け陸奥から攻め上った北畠顕家や，北陸で活動していた新田義貞が戦死したのは南北朝の動乱初期の1338年である。翌年には後醍醐天皇も吉野で亡くなった。

Ⅰ観応の擾乱は1350年に起こり，高師直が敗死した後には足利尊氏・直義の兄弟が争った。1352年に直義は敗死したが，以後も幕府内部の対立は続いた。観応の擾乱の勃発によって，南朝も含め三派が離合集散を繰り返すこととなり南北朝の動乱が長期化する一因となった。

Ⅲ後醍醐天皇の皇子懐良親王は征西大将軍として九州に下向し，肥後の菊池氏などの支援を受けて1360年代には九州を制圧したが，幕府によって九州探題に任命された今川了俊（貞世）は1370年代に南朝勢力を制圧した。　注意

問4　鎌倉時代末期から南北朝動乱期には，刈田狼藉を取り締まる権限や，幕府裁判の判決を強制執行する使節遵行権が守護に与えられ，守護は国内の武士に対する統制を強めていったが，特に効果が大きかったのは半済令であった。半済令は軍費調達のために守護に一国内の荘園・公領の年貢の半分を兵糧米として徴発する権限を与えたもので，観応の擾乱中の1352年に近江・美濃・尾張で1年限りで認められた。やがて全国的に，また永続的に行われるようになり，しかも土地そのものを分割するようになって守護が荘園や公領を侵略するおもな手段となっていった。

問5　有力守護の大内義弘は九州制圧，明徳の乱，南北朝の合体などで功績をあげ6カ国の守護となるとともに，朝鮮との貿易で利益をあげ富強となった。足利義満は有力守護の抑圧をはかって義弘を挑発し，1399年，義弘は堺で挙兵したが敗死した。この事件は年号をとって応永の乱とよばれている。

▽足利義満による有力守護の抑圧事件　参考

時期	出来事・事件名	内容
1379年	康暦の政変	管領として足利義満を補佐してきた細川頼之が罷免された。
1390年	土岐康行の乱	美濃・尾張・伊勢3国の守護土岐康行が討伐された。
1391年	明徳の乱	一族で11カ国の守護を兼ねた山名氏一族の内紛に義満が介入し，山名氏清らが討伐された。
1395年	今川了俊の解任	九州探題として活躍した今川了俊が解任された。
1399年	応永の乱	有力守護の大内義弘が義満に討伐された。

問6　C石山が入る。石山本願寺は現在の大阪城の地に建立された浄土真宗本願寺派の寺院で，1532年に法華一揆の攻撃を受けた山科本願寺が焼失した後，本願寺勢力の中心となった。寺院の周りには濠や土塁をめぐらせた寺内町が形成され，地域経済の中心ともなった。織田信長と一向宗の11年に及ぶ戦いを石山戦争（合戦）とよぶ。

問7　D日野富子（b）が入る。9代将軍足利義尚は8代将軍足利義政と日野富子の子であった。義尚の死後も富子は政治的発言力を持ち，幕政を動かした。**a**の北条政子は源頼朝の妻で，鎌倉時代初期の人物なので時期が異なる。

E京都で亡くなったのは13代将軍足利義輝だけであり，病死ではなく敗死である。そのため，京都で病死した将軍は一人もいないことがわかる。よって**d**は正しい。13代将軍の足利義輝は親の12代将軍足利義晴から，また，9代将軍の義尚も親の8代将軍足利義政から将軍職を譲られている。よって**c**は誤りである。

F戦国時代は下剋上の時代であったが，天皇が存続し戦国大名も律令官制に由来する位階・官職を得ることを求めるなど，古代以来の身分秩序は完全に崩壊していたわけではなかったので**f**が適当であると考えられる。以上から**8**が正しい。　重要

問8　X正しい。日蓮宗（法華宗）は15世紀の日親の布教などによって京都の富裕な商工業者である町衆などの間に広がった。彼らは16世紀前半の天文年間には法華一揆を結び，一向一揆などと対決するとともに，京都の町政を自治的に運営したが，天文法華の乱で延暦寺による焼打ちを受けて，京都を追われた。

Y誤り。15世紀後半に一向宗（浄土真宗）を広めたのは栄西ではなく蓮如である。蓮如は平易な文章で教えを説く御文を用い，また各地で門徒の集団である講を組織して惣村に教えを広げていった。栄西は鎌倉時代初期に臨済宗を伝えた僧侶である。　頻出

問9　**b**正しい。織田信長は1567年に美濃の斎藤氏を滅ぼして岐阜城に移った頃から「天下布武」の印判を使用し，上洛して天下（京都とその周辺をさす）を武力で治める意志を明らかにした。印判の「天下」の文字を確認してほしい。

d正しい。左に鉄砲隊，右に騎馬隊が描かれており，織田・徳川連合軍が鉄砲を大量に用いた戦法で，騎馬隊を中心とする武田勝頼の軍に大勝した長篠合戦を描いた屏風の一場面であると判断できる。Ⅱの資料は教科書や資料集などに掲載されているので確認しておこう。

a誤り。織田信長は「日本国王」と自称したことはなく，印判の文字からも「日本」は確認できない。

c誤り。桶狭間の戦いは織田信長が今川義元の軍を急襲した戦いであり，Ⅱの資料のように鉄砲隊や騎馬隊が布陣した戦いではないとみられる。　注意

問10　1587年，島津氏討伐のために九州に下向した豊臣秀吉は，イエズス会の教会がキリシタン大名と結んで勢力を拡大していることを実見し，九州平定後，博多で大名らのキリスト教入信を許可制とするなど事実上，キリスト教信仰を禁圧する法令を出した。その翌日には，このバテレン（伴天連）追放令を出し，宣教師の国外追放を命じた。しかし，史料からも読み取れるように，貿易は奨励していたので，キリスト教の禁圧は不徹底に終わった。　基本

問11　戦国時代末期の1567年，松永久秀らがかかわった戦いで東大寺大仏が焼失した。その再建はなかなか進まなかったが，豊臣秀吉は自らの手で京都に大仏を造立しようとして，方広寺大仏の造立を計画し1595年に大仏殿が完成した。大仏造立には刀狩で没収した武器を再利用した釘なども実際に用いられ，この大仏もほぼ完成したが翌年に起きた地震によって倒壊し，数年後に大仏殿も焼失した。1614年豊臣秀頼が大仏・大仏殿を再建したが，その際に奉納した梵鐘の銘文が問題となる方広寺鐘銘事件が起こり，豊臣家が滅亡に追い込まれることになった。

2 中世の日中関係（25点）

解答・配点

問1	唐物	2点
問2	刀伊	2点
問3	**3**	2点
問4	（鎌倉の海岸は）遠浅で大型船が着岸できなかったため。（18字）	3点
問5	**1**	2点
問6	**5**	3点
問7	建長寺船	2点
問8	**1**	2点
問9	**4**	2点
問10	**4**	3点
問11	寧波の乱	2点

●出題のねらい

中世の日本と中国（宋・元・明）との関係について3パートに分けて出題した。中国との関係は，中国の冊封体制下に入り正式な国交を結ぶ場合と私的な交易関係を中心とする場合があるが，その違いを把握してほしい。ただし，どちらの場合においても人・モノの動きが活発であり，それは蒙古襲来など一時的な緊張関係にあっても，交流が途絶えることはなかった。本問では中世の日中関係から，政治・経済・文化について出題したが，中世の日中関係がどのように展開したのかをリード文・設問を通じて理解してほしい。

A 日宋関係
B 日元関係
C 日明関係

●設問解説

問1 A唐物が入る。唐物とは中国からの舶来品という意味である。唐の時代の中国からの物品が貴重であったため，唐が滅亡した後も中国から輸入された書籍や工芸品などは唐物と総称された。

問2 刀伊とは中国大陸の沿海州地方に住んでいた女真人のことをさす。また，1019年に刀伊が対馬・壱岐・九州北部に来襲した事件が，いわゆる「刀伊の入寇」である。日本は，大宰権帥の藤原隆家に率いられた在地の武士らの奮闘で刀伊を撃退した。 基本

問3 **3** 大輪田泊は，摂津国（現在の兵庫県神戸市）に位置した古代の港である。奈良時代に行基が設置したともいわれる。瀬戸内海航路の要地であり，12世紀に平清盛が修築し，畿内に宋船を迎え入れた。中世以降は大輪田泊の名は和田岬などの名に名残をとどめ，かわって兵庫・兵庫津などとよばれるようになった。

1 平清盛が武士として初めて任命されたのは摂政ではなく太政大臣である。1167年に任命された。

2 平清盛の娘である徳子は高倉天皇の中宮である。安徳天皇は高倉天皇と徳子の間に生まれた皇子であり，清盛の外孫にあたる。

4 平清盛が装飾経を奉納し（『平家納経』），一門の繁栄を祈願した神社は厳島神社である。 基本

問4 **史料**には，由比浦（由比ガ浜）に浮かべようとした唐船を数百人の人夫が午の刻から申の刻（昼の12時から16時）の終わりまで引いたにもかかわらず浮かべることができなかった，と記述されていることから，鎌倉の海岸は遠浅（水深が浅い）であったことがわかる。そのため，由比浦に大型船は着岸できなかった。和賀江島は鎌倉海岸の東南の飯島崎突端から海に突き出す人工島であった。1232年に勧進聖人の往阿弥陀仏の発願に鎌倉幕府が協力し，大型船が着岸できるように人工島を築いた。その周辺は商業地区としてにぎわった。和賀江島は，現在は崩れてほとんどが海中に沈んでいるが，干潮時になると，石積みが海上に姿をあらわす現存最古の中世の築港跡である。 重要

なお，史料は，桃崎有一郎訳『現代語訳吾妻鏡8 承久の乱』（吉川弘文館），杉山巌訳『現代語訳吾妻鏡10 御成敗式目』（吉川弘文館）による。

解答のポイント

＊鎌倉の海岸の地形的な特徴として「遠浅（水深が浅い）である」ことが書けている
＊和賀江島が築造されることになった理由として「大型船が着岸できない」ことが書けている

問5 Bフビライ＝ハンが入る。フビライ＝ハンはモンゴル帝国の5代の皇帝で，元の初代皇帝である。1267年に大都（北京）に遷都し，1271年に国号を元と定めた。チンギス＝ハンは1206年にモンゴル諸部族を統一し，華北から中央アジア，南ロシアまでを版図とする大帝国を建設した。

C陶磁器が入る。1976年に韓国の新安沖で沈没船が発見された。この船は元から日本に向かう途中で沈没したと考えられ，引き上げた船には多くの銭や陶磁器などが残されていた。刀剣は日本からの輸出品であった。

問6 Ⅲ三別抄とは高麗で特別編成された選抜部隊のことである。モンゴルの侵入に応戦し，高麗王がモンゴルに服属した後も珍島や済州島を根拠に抵抗してモンゴルの日本遠征に大きな障害となったが，1273年に鎮圧された。モンゴル（元）は三別抄を鎮圧後の1274年に日本に軍を送った（文永の役）。

Ⅰ1281年の弘安の役のことである。元は1279年に南宋を滅ぼしてその人々を動員し，弘安の役に際しては元・高麗の東路軍と旧南宋を主体とする江南軍の二手に分かれて襲来した。しかし元軍は，防塁（石築地）や日本軍の奮闘によって上陸をはばまれ，さらに暴風雨に襲われて壊滅的な打撃を被り，2回目の日本遠征も失敗に終わった。

Ⅱ鎮西探題は，幕府が九州の軍事・行政・裁判を統括するために任命した役職で，北条氏一族が補任された。任命の時期については1293年説と1296年説がある。元軍の再来襲に備え，異国警固を恒常化する必要があったため，九州の御家人が関東や六波羅へ出訴することを禁じ，かわって九州に最終裁断権を持つ強力な統治機関をおいた。 頻出

問7 1325年に鎌倉幕府が建長寺の修造費用などを得るために，元に派遣した貿易船は建長寺船である。当時このような寺社造営料唐船が次々と中国に派遣された。

問8 X正しい。明は冊封体制の再建をめざすため，交易を統制した海禁政策をとった。倭寇対策の一環として中国人の海外渡航・貿易を禁止し，朝貢貿易以外の貿易を禁止するために朝貢国に対して明が交付する勘合の所持を義務付けた。遣明船の入港地は寧波に限定され，遣明使は寧波で勘合の査証を受けた後，北京におもむき皇帝に朝貢した。

Y正しい。4代将軍の足利義持は，明に臣属する冊封や朝貢は屈辱的であるとして，足利義満が始めた勘合貿易を1411年に中断したが，6代将軍の足利義教は，1432年に貿易を再開した。 基本

問9 **4** 誤り。撰銭とは貢納や商取引において精銭を選び，悪銭を排除することである。悪銭には私鋳銭や焼銭・鐚銭などがあったが，撰銭が横行すると貢納・商取引などが混乱するため，対応策として幕府や大名が領内に通用する精銭の基準，悪銭との交換率を定めた撰銭令を出した。

1 室町時代，明から大量の銅銭が輸入されたが，輸入明銭のなかで最も多く流通したのが永楽通宝である。そのほかには洪武通宝や宣徳通宝などが使用された。

2 土倉・酒屋とは，鎌倉時代や室町時代の金融業者のことである。土倉は，質物保管のための土塗りの倉庫を建てていたことからこの名称がつけられた。また酒造業者は多額の資本を有し，土倉を兼ねるものも多くいた。営業税として室町幕府に土倉役（倉役）・酒屋役を納めたが，これら金融業者は，しばしば土一揆の襲撃対象にもなった。

3 室町時代中頃から商品の増大や流通経済の発達に伴い，市が開催される頻度が増加した。交通の要地や寺社の門前などで月6回の定期市が開かれる六斎市もみられるようになった。

問10 b正しい。**史料**の「唐糸」とは生糸をさしている。中国の生糸は，後の南蛮貿易においてもポルトガル人などからもたらされる重要な輸入品の一つであった。

d正しい。**史料**の「備前・備中に於いては，銅一駄の代は十貫文なり。唐土の明州・雲州に於いて糸ニこれを替へば，四十貫五十貫ニ成る者なり」の部分から，日本の銅を明で生糸にかえて持ち帰れば，4倍・5倍で売れると読み取れることから判断できる。

a誤り。「唐糸」とは繭糸ではなく生糸のことである。中国産生糸は国産のものより品質が良く珍重された。木綿は室町時代に朝鮮との貿易で大量に輸入され，やがて国内での栽培も始まった。

c誤り。dの解説でふれた通り，備前・備中の銅を明で生糸にかえるということが読み取れることから，銅は日本の輸出品であったことがわかる。 注意

問11 博多の商人と結ぶ大内氏と堺の商人と結ぶ細川氏が，遣明船の主導権をめぐって対立し，1523年に明の寧波で起こした争乱は寧波の乱である。この争乱で日明（勘合）貿易は一時中断したが，貿易再開後，大内氏が貿易を独占した。

3 原始・古代の身分制度や税制（25点）

解答・配点

問1	**4**	2点
問2	沖ノ島	2点
問3	大人	2点
問4	**8**	3点
問5	**2**	2点
問6	防人	2点
問7	**3**	2点
問8	（天皇は）大宰少弐の藤原広嗣の行為を八虐〔謀反〕とみなしたから。（23字）	3点
問9	大学	2点
問10	**1**	2点
問11	**4**	3点

●出題のねらい

弥生時代から奈良時代までの身分制度及び税制を中心に出題した。地域統合が進展しヤマト政権が誕生する過程で身分制度も徐々に整備され，それは律令国家となって一層強固なものになった。律令政府は，税制を確立し，貴族の特権を保障する一方，周辺地域にも勢力を拡大し，それぞれの地域及びその民を新たに体制下に組み込んでいった。歴史事象の関連性を意識しながら，当時の社会構造の把握に努めるよう留意してほしい。

A 弥生時代から7世紀までの身分制度
B 奈良時代の身分制度や租税

●設問解説

問1 A大臣が入る。蘇我氏や平群氏が任じられたのは大臣である。大連は，職掌を氏の名とした豪族のうち，大伴氏や物部氏などの有力豪族が任じられた。

B乙巳の変が入る。空欄の後の「大化の薄葬令」を手がかりに，乙巳の変が時期として適切であると判断できる。磐井の乱は6世紀前半に九州の筑紫国造の磐井が新羅と

結んで起こした反乱である。

問2　沖ノ島は，設問文にもあるように4～9世紀の祭祀遺跡から数多くの優れた遺物が発見されたことから「海の正倉院」ともよばれる九州の北方玄界灘に浮かぶ島で，その歴史的価値から2017年7月に世界文化遺産への登録が決定された。このような世界遺産に関する問題がセンター試験でも出題されているので日頃から留意しておこう。　注意

問3　「魏志」倭人伝には，当時の邪馬台国の状況が詳細に記されている。邪馬台国には租税や刑罰の制度のほか，支配者層の大人や被支配者層の下戸のような身分差があったことも触れられている。

問4　**8**が適当である。この**史料**は埼玉県の稲荷山古墳(**b**)から出土した鉄剣の銘文である。5世紀当時のヤマト政権の勢力範囲は，埼玉県稲荷山古墳出土の鉄剣や熊本県江田船山古墳（**a**）出土の鉄刀からうかがい知ることができるように，九州中部から関東まで広範囲に広がっていた。それぞれの遺物に記されている獲加多支鹵大王は**d**の倭王武（雄略天皇）にあたると考えられる。**c**の倭王讃は応神天皇・仁徳天皇・履中天皇をあてる諸説がある。**史料**の「このよく鍛えた刀を作らせて」から，この遺物は当地の豪族が制作させたことが読み取れ，**f**が正答であることがわかる。　基本

問5　**2**が正しい。660年に百済が唐・新羅の侵攻にあい滅亡した。百済の遺臣のなかには倭国に百済再興への協力を求めるものがいた。それにこたえる形でヤマト政権は大軍を朝鮮半島に派遣したが，663年のいわゆる白村江の戦いで大敗した。その後，ヤマト政権は唐・新羅の侵攻に備え，水城の設置など国防の強化に努め，さらに庚午年籍を作成（670年）して兵力の確保に努めたといわれる。その後，天智天皇が死去すると，皇位継承をめぐり壬申の乱が起きた（672年）。その戦いに勝利し，即位した天武天皇は皇親政治を推進するために新たな身分秩序である八色の姓を制定したといわれる。　重要

問6　正丁約3人に1人の割合で兵士として徴発され，各国の軍団で訓練を受けた。その後上京して宮城を警備するものを衛士とよんだのに対して，任期3年で九州北部沿岸の警備にあたったものを防人とよんだ。防人として徴発されたのはおもに東国の農民で彼らの食料や兵器は自弁であったので大きな負担になった。

問7　X誤り。国司は中央から派遣された官僚である。一方，律令制度のもと，かつて国造とよばれた地方豪族の末裔などが郡司として国司の地方支配を支える立場となった。

Y正しい。律令制度では，人民は良民と賤民に大別された。そのなかで税を負担する多くの農民は，支配者層と同じ良民に組み込まれた。　頻出

問8　設問文から，この人物は「遠の朝廷」である大宰府に従五位下で赴任したことがわかる。そして，その官職は官位相当制の表から大宰少弐であったと特定できる。さらに，吉備真備や玄昉の排斥を求めて蜂起したことから，藤原広嗣であると判断できる。広嗣は位階が五位以上なので貴族の身分であり，本来ならば実刑を免除される貴族の特権があるはずだが，**史料**の注2より聖武天皇は彼の行為を謀反とみなしたことが読み取れる。謀反は貴族の特権が適用されない八虐の一つに相当するため，広嗣は厳罰に処された。

解答のポイント

＊反乱を起こした人物名として「藤原広嗣」が書けている
＊官職名として「大宰少弐」が書けている
＊貴族の特権を適用せず厳罰に処した理由として天皇は「その行為を八虐（謀反）とみなした」ことが書けている

問9　律令支配を行っていくうえで，それを支える官僚の育成は必要不可欠であった。そこで，平城京内には貴族の子弟などを対象に明経道などの学科を備えた教育機関である大学が設けられた。一方，地方には郡司の子弟などを対象に国学が設けられた。

問10　**1**律令政府は，徴税を行う基本台帳として毎年計帳を作成した。一方，班田を実施するために民衆の登録台帳として6年ごとに作成されたのは戸籍である。

2班給される口分田の広さは良民の男性が2段に対して，女性はその3分の2であった。

3都での労役にかえて布を納める税は庸とよばれた。調は各地の特産品を納める税であった。

4都まで運ばれた税は調と庸であり，租はおもに地方の国衙の財源となった。また，調や庸を都まで運ぶ労役のことを運脚とよんだ。　基本

問11　**b**正しい。坂上田村麻呂は8世紀後半から9世紀初期に活躍した人物で，律令国家の勢力範囲を多賀城から北上させて，胆沢城を築き鎮守府を移した。翌年にはさらに前衛基地として志波城を築いた。

d正しい。律令国家は勢力を拡大し，各地の人々を体制内に組み込んでいった。特に九州南部と東北地方に住み，倭人と異なった文化を築いていた人々をそれぞれ隼人と蝦夷とよんだ。

a誤り。阿倍比羅夫は7世紀半ばに活躍した人物で，日本海側においてヤマト政権の支配範囲の拡大に努め，その後白村江の戦いでも活躍した。多賀城は，8世紀前半に設置されたものであり，阿倍比羅夫の活躍した時代とは異なる。

c誤り。8世紀前半に九州南部に設けられた国は大隅国である。出羽国も同じ頃に設置された東北地方の国である。　重要

4　古代の建築物（25点）

解答・配点

問1	飛鳥寺〔法興寺〕	2点
問2	**4**	3点
問3	鞍作鳥〔止利仏師〕	2点
問4	鎮護国家の思想に基づき，国分寺・国分尼寺の建立を命じた。(28字)	3点
問5	行基	2点
問6	**1**	2点
問7	**3**	2点
問8	**1**	2点
問9	**3**	2点
問10	『往生要集』	2点
問11	**2**	3点

●出題のねらい

古代において建築物は，権力者が自らの権威を明らかにし，それを体現する文明の壮大さや美意識の優越をあらわすものでもあった。そこには，仏教の影響を受けたさまざまな仏像がおかれたほか，国際色豊かな芸術品などがおさめられている。本問では，世界遺産に登録されている日本を代表する建築物（寺院）を通して，各時代の仏教文化の特色を中心に問うた。それぞれの建築物や仏像が，その時代の特色をどう示しているか，教科書や資料集などを用いて理解を深めてほしい。

A　法隆寺と飛鳥文化
B　東大寺と天平文化
C　東寺・平等院と平安時代の文化

●設問解説

問1　A飛鳥寺（法興寺）が入る。飛鳥時代の寺院は，蘇我氏や渡来系氏族による氏寺が多数を占めている。また，従来の建築物が掘立柱で，屋根を木の皮などで葺くものであったのに対し，寺院は礎石や瓦葺などの大陸の新技術を用いた巨大建築であった。このような寺院は，有力農民層が群集墳の築造をはじめることで，豪族の独占物ではなくなっていた古墳にかわって，権威の象徴となっていった。

問2　**4**が適当。歴史を考察する際の重要な手がかりの一つとして，史・資料を用いる方法がある。その際，考察するテーマに適した史・資料を選択し，適切な情報を読み取ることが必要である。考察文には「厩戸王は，軍事や外交を積極的に行っていたことがうかがえます」とあり，この内容は，**資料Ⅰ**の「推古朝の対外政策」の新羅征討や隋との交流部分などから読み取れる。**資料Ⅱ**は政治の中心地である飛鳥と外港である難波を結ぶ地図である。考察文の「斑鳩は，飛鳥から奈良盆地を経て難波の港に出る際の重要な中間地点」や「斑鳩は水陸交通の要衝地」は，**資料Ⅱ**から地図の特色を読み取り，考察しているといえる。また，「飛鳥と斑鳩の間は道（筋違道）で結ばれている」という部分についても，**資料Ⅱ**から読み取れる内容である。

たしかに，斑鳩の地には穴穂部皇子（厩戸王の叔父）らが葬られていると考えられており，斑鳩は王族ないしヤマト政権にとって重要な地であるということは，**資料Ⅲ**を用いて考察することができる。しかし，考察文にはこれらのことについては言及されておらず，この考察文に限って考えると，**資料Ⅲ**は用いられていないといえる。　注意

問3　鞍作鳥（止利仏師）は飛鳥時代の仏師で，北魏様式の仏像をつくった名手である。彼の作品としては，法隆寺金堂釈迦三尊像のほか，飛鳥寺釈迦如来像（飛鳥大仏）が有名である。　基本

問4　聖武天皇の即位後，藤原武智麻呂ら藤原4兄弟が天然痘であいついで死亡するなど社会不安が増大していた。また，長屋王の変や藤原広嗣の乱が発生するなど政治的不安も高まっていた。天皇はこの不安を鎮めるために恭仁京などに遷都し，また仏教の力により国家の安定を実現させようという鎮護国家の思想により，741年に国分寺建立の詔を出して国ごとに国分寺・国分尼寺の建立を命じた。さらに743年には大仏造立の詔を出し，盧舎那仏の造立を開始した。　重要

解答のポイント

＊思想の名称として「鎮護国家の思想」が書けている
＊諸国に命じた内容として「国分寺・国分尼寺の建立を命じた」ことが書けている

問5　行基は，積極的な布教活動のほか，社会事業にも尽力して多くの人々からあつい尊敬を受けた。しかし，当時は寺院の外での布教活動が制限されていたため，彼は政府による弾圧の対象になった。しかし後に政府は行基に対する民衆の圧倒的な支持を考慮し，大僧正に任命した。

問6　**a**正しい。甲は東大寺法華堂執金剛神像である。

c正しい。乙の東大寺法華堂不空羂索観音像は乾漆像とよばれる技法で制作された仏像である。乾漆像は，麻布を漆で固めて制作したもので，脱乾漆像と木心乾漆像がある。乾漆像と塑像は，ともに天平文化期に発達した仏像彫刻の技法である。

b誤り。乙が不空羂索観音像である。

d誤り。塑像とよばれる技法で制作されているのは甲の執金剛神像である。塑像は，心木に荒縄を巻き付け，荒土をつけて像の形をつくり，その上に仕上げ土で整え，最後に彩色を施したものである。

問7　**3**誤り。玉虫厨子は法隆寺にあり，正倉院の宝物ではない。玉虫厨子の屋根や仏像を納める宮殿部には，法

隆寺金堂などの飛鳥建築の技法が用いられており，宮殿部と須弥座部には仏教説話の絵画が描かれている。

1 奈良時代や平安時代の中央・地方の官庁や大寺には，重要物品を納める正倉が設けられており，正倉のある場所全体を正倉院という。現存する正倉は，正倉院宝庫のみで，北倉と南倉が柱を用いず三角形などの木材を用いて構成する校倉造で建てられている。

2 正倉院宝物は，聖武太上天皇や光明皇太后ゆかりの品をはじめとするものが中心である。

4 正倉院宝庫には美術工芸品も収蔵されており，螺鈿紫壇五絃琵琶や白瑠璃碗，漆胡瓶など国際性豊かな品もおさめられている。なお，現在は宮内庁が管理しており，多くの宝物は空調設備の整ったコンクリート造の新宝庫に移されている。 基本

問8 B左大寺（左寺）が入る。古代中国では「天子は南面す」とされ，国の君主である天子は南に向かって政治を執るとされていた。長安をモデルにした平安京でもこれにならったと思われ，天皇が大内裏から南を向いて左（東）側を左京，右（西）側を右京としていた。このことから，東寺は左大寺（左寺）ともいわれた。

C法成寺が入る。法成寺は出家した藤原道長が，1019年に阿弥陀堂を建立し，無量寿院と名づけたのがはじまりとされる。1022年に法成寺と改名し，壮麗を誇ったが，火災により焼失した。法勝寺は六勝寺の一つで，白河天皇の命令により1077年に完成した寺院である。

問9 X誤り。室生寺は女人高野ともよばれるが，和歌山県の高野山ではなく，奈良県宇陀市にある山岳寺院。女性の参詣が自由であったが，空海が創建した寺院ではない。伽藍配置に特色があり，山岳寺院らしく自由な配置となっている。空海は816年，高野山に金剛峰寺を開き，京都の東寺（教王護国寺）とあわせて真言宗を布教した。

Y正しい。綜芸種智院は，空海が庶民教育の目的で京都に設置した学校である。当時，開かれていた学校としては大学や国学があったが，それらには身分制限があったため，幅広い人々に儒教・仏教・道教などを教えるために設立されたものである。 頻出

問10 10世紀後半から11世紀初めに活躍した源信（恵心僧都）によってまとめられたのは『往生要集』である。源信は多くの経典のなかから極楽や地獄のありさまを示し，観想念仏による極楽往生を説いた。『往生要集』は末法思想の影響もあり，僧侶や貴族層に広く読まれた。このほかに，慶滋保胤によって，往生を遂げた人々の伝記を集めた『日本往生極楽記』なども著された。 基本

問11 Xの中尊寺金色堂は藤原清衡が陸奥平泉（現岩手県）に創建した阿弥陀堂である（**a**）。Yの富貴寺大堂は，大分県国東半島にある九州最古の阿弥陀堂である（**d**）。なお，**b**は福島県にある白水阿弥陀堂，**c**は鳥取県にある三仏寺投入堂の所在地である。